

自動温度調節器 TC-30・50A 取扱説明書

(1) 運転方法

- 1-1 工場電源を入れると温調器の電源ランプが点灯します。
- 1-2 温調器のブレーカーをONにすると、温度調節計(TIC)が約3秒間 を表示した後、K熱電対の検出温度を表示します。
- 1-3 運転スイッチを送風に入れると送風ランプが点灯し、熱風発生機の送風機が回ります。
但し、外部運転を使用しない場合 端子NO.3-4を短絡して下さい。
- 1-4 運転スイッチを熱風に入れると送風ランプ、ヒーターランプが点灯し、熱風発生機の送風機が回り、ヒーターが入ります。
但し、温度調節計の設定値を設定して下さい。
※設定値0℃の場合ヒーターは入らずヒーターランプは点灯します。

(2) 異常ランプ

2-1 送風機異常ランプ

○送風運転の場合

熱風発生機の送風機に異常が生ずると送風機異常ランプが点灯し熱風発生機の送風機が止まり送風ランプが消えます。

○熱風運転の場合

熱風発生機の送風機に異常が生ずると送風機異常ランプが点灯し熱風発生機の送風機及びヒーターが切れ送風ランプ・ヒーターランプが消えます。

————— トラブル原因 —————

熱風発生機の送风量過多、軸受(ハブリング)寿命、欠相運転(TC-50Aのみ)等。

2-2 温度異常ランプ

運転スイッチ熱風の時、熱風発生機のTCA(吐出口温度センサー) TCC(吸入温度センサー)が働くと、温度異常ランプが点灯し、熱風発生機のヒーターが切れヒーターランプが消えます。

————— トラブル原因 —————

送風機の吸入側ファン-の金網の詰まり、配管の詰まり、TCA(吐出口温度センサー)及びTCC(吸入温度センサー)の故障など。

2-3 オーバーヒートランプ

熱風発生機のTCB(ヒーター過熱防止センサー)が働き、オーバーヒートランプが点灯し、NFB(ノーヒューズブレーカー)のSHT(電圧引きはずし装置)が働きNFBがトリップします。その時、電源ランプを除く全てのランプが消え、TICの表示が消えます。

————— トラブル原因 —————

熱風発生機の配管の詰まり及びTCB(ヒーター過熱防止センサー)の故障など。

使用上の注意

1. 本器据付けは水平の状態を設置して下さい。
2. 感電事故防止の為必ず第3種アース工事をして下さい。
3. コードを延長する場合は、できるだけ短くして末端までの電圧降下が2%以上とならないようにすることが規定されています。
4. 送風とヒーターの安全回路を使用せず送風が止まった状態でヒーターへ通電すると、空炊きによりヒーターは、断線しますので、接続図通り配線して下さい。
5. 本器に適した熱風発生機を使用して下さい。
6. 本器は周囲温度(0℃~40℃)・周囲湿度(90%R.H.以下)の所に設置して下さい。
7. 風雨にさらされない場所に設置して下さい。
8. 運転中、冷却ファンは熱くなっていますのでふれないで下さい。
又冷却ファンは壁等より70ミリ以上はなして下さい。

TC-30A・50A 端子配列

	R	
	S	
	T	
	E	
	U	
	V	
	W	

電源
(AC200V 50/60HZ)

ヒーター回路
〔 TC-30A 7.5KWまで
TC-50A 15KWまで 〕

⊕
1
2
3
4
5
6
7
8
⊕
⊕
9
10
11
12
13
14
15
16
⊕

オーバーヒート
トリップ信号 (N.O 接点)

外部運転信号

送風異常信号 (⊕端子共通接点)
(外部サーマル)

送風運転信号 (出力 AC200V)

送風機用端子
(TC-50Aのみ φ3 400Wまで
安全回路については外部サー
マルを取り付けて下さい。)

温度異常信号 (N.C 接点)

熱電対入力 (K)